

- 問1 承久の乱の後に、京都で朝廷の監視や西国の統治を行う六波羅探題を設置した人物は誰？
- 問2 一遍が諸国を巡りながら、念仏を唱えて踊ることで教えを広めた活動を何という？
- 問3 モンゴル帝国が中央アジアを征服し、世界規模で勢力を広げたのは何世紀？
- 問4 北条泰時が制定した、日本最初の武家法の別名を何という？
- 問5 武士が主従関係において、自分の仕える相手のことを何という？
- 問6 鎌倉幕府において、将軍が御家人に領地などを与えることを何という？
- 問7 元軍の再来に備えて、北条時宗が博多湾岸に築かせた防壁を何という？
- 問8 時宗の僧である一遍が、念仏を唱えながら踊ることで信仰を広めた形式を何という？
- 問9 鎌倉時代の武士が好んだ、飾らずに自分を律する生活態度のことを何という？
- 問10 阿弥陀仏の救いを信じて念仏を唱えれば救われると説き、浄土真宗を開いた僧は誰？
- 問11 鎌倉時代に栄西によって伝えられ、曹洞宗とともに武士から厚い支持を受けた禅宗の宗派を何という？
- 問12 武士の気風を反映し、写実的で力強い特徴を持つ、鎌倉時代に栄えた文化を何という？
- 問13 法然が庶民に信仰を広めた、死後の安らかな世界を何という？
- 問14 鎌倉幕府において、将軍が御家人の何を守る（安堵する）ことを根拠とした主従関係を「御恩と奉公」という？
- 問15 東大寺南大門の金剛力士像などを制作した、鎌倉時代の有名な仏師は誰？
- 問16 モンゴル帝国（元）の遠征を受けた際、当時の日本を統治していた幕府を何という？
- 問17 鎌倉幕府の重要職であり、土地の管理や年貢の徴収、裁判などを行って現地の武士を支配した役職は何という？
- 問18 十三世紀後半、モンゴル帝国から日本へ侵攻してきた軍隊を何という？
- 問19 将軍と御家人の関係において、御家人が果たすべき最も重要な任務の一つである、戦いに参加する義務を何という？
- 問20 鎌倉時代、幕府の打倒をめざして挙兵し、敗れて隠岐に流された人物は誰？
- 問21 モンゴル帝国が建国されたのは、日本ではどの時代にあたる？
- 問22 『方丈記』や『枕草子』、『徒然草』を総称して何という？
- 問23 鎌倉幕府において、御家人の統制や軍事・警察を担う「侍所」を設置した初代将軍は誰？
- 問24 鎌倉時代末期に『徒然草』を著した人物は誰？

答え合わせ・解説

問1	答え 北条泰時	北条泰時は、北条義時の長男として活躍し、乱の直後に京都に六波羅探題を設置して政治基盤を固めました。また、武士の習慣に基づく日本初の武家法典『御成敗式目』を制定し、公平な裁判の実現に努めました。
問2	答え 踊念仏	一遍が始めた「踊念仏」は、太鼓を打ち鳴らし、念仏を唱えながら踊ることで、深い宗教体験を得ようとするものです。この活動は非常にエネルギーで視覚的にも人々の注目を集め、武士から農民、商工業者まで幅広い階層の人々を熱狂的に惹きつけました。
問3	答え 13世紀	1206年のモンゴル帝国建国から、13世紀を通じてモンゴル軍は東西に遠征を行いました。この時代は日本でいう鎌倉時代の中期にあたり、幕府にとっては東アジアの情勢が大きく変化した激動の時期でした。
問4	答え 貞永式目	この時に制定された法律は「御成敗式目」として知られていますが、制定された年号をとって「貞永式目」とも呼ばれます。貴族の慣習ではなく、武士たちの間に蓄積されてきた慣習を尊重したのが特徴で、武士だけでなく、当時領地を管理する上で法的保護を必要としていた人々にとっても重要な指針となりました。
問5	答え 主君	主君は、鎌倉幕府においては将軍であり、家臣である御家人に対して領地の保護（御恩）を保証する存在です。御家人は、この主君のために命をかけて戦ったり、警備などの務め（奉公）を果たしました。この強固な関係性が、鎌倉幕府を維持する大きな力となっていました。
問6	答え 御恩	「御恩」とは、幕府が御家人に対して本領安堵（先祖代々の領地の支配を認めること）や、新恩給与（新しく獲得した土地を与えること）を行うことです。御家人はこれに対する見返りとして、戦いの際に軍役を果たしたり、番役を務めたりしました。
問7	答え 石築地	執権・北条時宗は、博多湾の海岸線に沿って高さ約2メートルにも及ぶ石の壁、石築地（元寇防壁）を築かせました。これは騎馬武者が元軍の上陸を食い止めるための強固な障壁として機能し、後にくる元軍の再襲来（弘安の役）で大きな効果を発揮しました。
問8	答え 踊り念仏	「踊り念仏」は、楽器の音に合わせて歌い踊りながら念仏を唱えるという、非常に活動的な布教の形です。視覚的・聴覚的に人々に訴えかけるこの方法は、当時の民衆にとって非常に魅力的でした。
問9	答え 厳格	鎌倉時代の武士は、富や権力を誇示するよりも、質素で厳格な生活を送り、主君に対する絶対的な忠誠を誓うことを美德としました。この精神性は、仏教の禅宗の普及とも結びつき、武士社会における倫理規範として定着しました。
問10	答え 親鸞	「親鸞」は、法然の弟子として学び、「浄土真宗」を広めました。彼は念仏を唱えることに加え、阿弥陀仏の慈悲を信じることを強調し、身分に関わらず誰でも救われると説きました。
問11	答え 臨済宗	臨済宗は、栄西が中国（宋）から日本に伝えた禅宗です。座禅を通じて自分自身を見つめ直し、悟りを開くことを目的とします。座禅の際に問いかけを用いる「公案（こうあん）」という独特の修行方法があるのが特徴です。
問12	答え 鎌倉文化	鎌倉文化は、武士の気風や、新しく起こった仏教の影響を受けています。彫刻では写実的で力強い表現が、文学では『平家物語』のような軍記物語が人々に親しまれました。また、禅宗の影響を受けて、簡素で力強い美意識が確立されたのも大きな特徴です。
問13	答え 浄土	浄土とは、阿弥陀仏が治める、迷いや苦しみから解放された極楽世界のことを指します。法然は、この浄土へ生まれ変わることを願い、ひたすら念仏を唱えることが重要だと説きました。この信仰は、現世の不平等に苦しむ人々にとって、唯一の救いとしての意義を持っていました。
問14	答え 土地	将軍は御家人の領地（本領）を「安堵（保証）」し、時には新しい領地（新恩給与）を与える「御恩」を与えました。一方、御家人は戦いの際に軍役に従事したり、幕府の警備をするなどの「奉公」を行いました。
問15	答え 運慶	「運慶」は、奈良の東大寺南大門に安置されている巨大な「金剛力士像」を、快慶らと共に制作した仏師です。筋肉の動きや表情までリアルに再現する写実的な作風は、当時の人々に衝撃を与えました。
問16	答え 鎌倉幕府	鎌倉幕府は「御恩と奉公」という主従関係を基盤に、地頭や守護を配置して日本全国の武士を統制しました。13世紀後半に元からの脅威にさらされた際、執権の北条時宗のもとで二度にわたる侵攻（元寇）を撃退しました。
問17	答え 地頭	地頭は、荘園や公領に置かれ、年貢を徴収したり、警察の役割を果たしたりして、現地での土地支配を強めました。承久の乱後、幕府は朝廷側の領地を没収し、多くの地頭を任命して西日本への支配を決定的なものにしました。
問18	答え 元軍	元軍は、モンゴル人を中心に、支配下の漢人や高麗人などを加えた巨大な連合軍でした。火薬を使った「てつほう」などの兵器を使い、集団で組織的に戦う戦法をとったため、個人の武勇を競う当時の武士たちを苦しめました。
問19	答え 軍役	御家人の重要な義務が軍役です。これは将軍から命じられた戦場に馳せ参じ、自ら武具を揃えて戦う義務のことです。これに加え、京や鎌倉を警備する番役などの奉公がありました。これらを通じて、御家人は自分の領地を守り、主君からさらなる恩賞を得ることを目指しました。
問20	答え 後鳥羽上皇	1221年、上皇は全国の武士に対して幕府討伐の院宣を出し、挙兵しました。これが「承久の乱」です。しかし、北条政子らの主導により幕府軍が迅速に対応したため、朝廷側は敗北しました。その結果、首謀者である後鳥羽上皇は隠岐へ流されることとなりました。
問21	答え 鎌倉時代	チンギス・ハンはモンゴル帝国を建国し、強力な騎馬軍団を率いて次々と周辺地域を征服しました。この動きは、後の鎌倉幕府がモンゴルの襲来（元寇）を受けるという歴史的な接点へとつながっていきます。
問22	答え 随筆	随筆は、決まった形式にとらわれず、筆者が感じたことや考えたことを自由な文章でまとめたものです。特に『方丈記』は鎌倉時代の不安定な世相を、『枕草子』は平安時代の貴族の美意識を、『徒然草』は鎌倉時代末期の洗練された価値観をそれぞれ鮮やかに描き出しています。
問23	答え 源頼朝	1185年に鎌倉幕府の主要な機関として「侍所」を設置しました。侍所は御家人の統制や軍事・警察を担当する組織で、初代の長官（別当）には和田義盛が任命されました。これにより、全国の御家人が将軍の指揮下に入る体制が整いました。
問24	答え 吉田兼好	吉田兼好（兼好法師）は、元は官職に就いていましたが、のちに仏門に入り、各地を旅しながら執筆活動を行いました。その代表作『徒然草』は、無常観や生活の知恵、日々の感想を独自の感性で綴った作品です。